



佐工だより

佐賀県立佐賀工業高等学校 総務部発行 第366号 (2023年2月)



1月は春のように暖かな年始でしたが、後半は急激な寒波で冷え込みました。年末の終業式では、「うまくいかなかった人は、なぜうまくいかなかったのか振り返らなくてはならない」と野田亮校長先生がお話しされましたが、満足のいく結果をえられた人もそうでない人も、冬休みには自分を顧みる時間を作れたでしょうか。3学期は年度の仕上げの大切な時期。2学期の反省を踏まえて、充実した日々にしましょう。

「抱負」とは、すなわち「決意」 校長 野田亮先生



1月10日(火)は3学期の始業式が行われました。野田亮校長先生は訓話の冒頭で、「新年の抱負とは英語で何と言うのでしょうか」と問いかけられました。多くの諸君は「Ambitionかな?」と思うところですが、「New Year's Resolution」なんだそうです。物理がご専門の校長先生は「Resolution」というと『分解』とか『解析』の意味で、鮮明かつ具体的なものです。英語では「抱負」とは、未来を鮮明に思い描いて、それに向かって進んでいくものなのでしょう。日本語の語感からくるようなふわっとしたものではありません。皆さんもクリアな未来を思い描いて進む年にしてください」と述べられました。3年生諸君には「進路先で自分の力を発揮できるよう準備する期間です。職場では、自分に課せられたことに、いかに誠実に応えてくかが大切です。心身ともに整えて臨んでほしい」、2年生諸君には「進路決定の時が一步一步近づいてきている。自分はこういう人間ですと胸を張って言えるよう、日々の努力を積み重ねてほしい」。そして1年生諸君には、「高い目標に向かって自分を高めていく時間があります。これからの生き方やどういう人になりたいかということじっくりと考え、具体的な行動をしてほしい」とお話しになりました。佐賀県は全国でも1、2位を争う人口当たり感染者数が続いた時期もありましたが、授業・行事を止めないために、感染リスクを下げるよう努め、校長先生が力強く激励してくださるとおり「頑張る3学期にしましょう！」



花園ラグビー大会 2年連続ベスト8進出

12月27日から1月7日の日程で開催された第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会。本校は41年連続、51回目の出場です。12月30日(金)、1回戦シードの佐賀工業は初戦、2回戦で岐阜代表の岐阜工業高校と対戦し、43対10で初戦を白星で飾り、3回戦にコマを進めました。そして1月1日、愛知代表の中部大春日丘と対戦。リードされる展開が続くも、前半で9対8とわずかながら逆転。続く後半はこの1点を最後まで守り切り、接戦を制して2年連続のベスト8を決めました。



3回戦終了後に3日に行われる準々決勝の組み合わせ抽選が行われ、強豪東福岡高校との対戦が決まりました。互いに点を取り合う展開から、点差を開けられ東福岡優勢に傾いたところで本校チームが巻き返し、3点差まで追いつけたところで前半を終了しました。後半は一気に攻めて4点リード。このまま試合終了に…と誰もが願っていましたが、相手チームも必死のプレーで再逆転。さらに点差が開き、18対24で準決勝への切符を手にすることができませんでした。

主将の舩尾大和さん（I3・王子中）は「今年のチームは目標を高く設定できました。ベスト8以上ではなく、優勝を目指しました。再抽選では東福岡を引き当てましたが、今年度に負けたのはここだけだったので、また優勝するにはここに勝たねばならないと思っていたのでやってやるぞという気持ちでした。負けたこと以外に悔いはありません。」と大会を振り返りました。また他の選手も、「練習の成果を発揮できる場所として楽しみました。力強いキャリーができたところがよかったです。ラグビーは体をぶつけるだけでなく、作戦を組み合わせて頭を使うところが面白いです。（安田尊さん・K3・飛幡中）」、「東福岡戦で、新ルール50：22を活用した、いいプレーができた。（迫中一斗さん・I3・岡垣）」と、大会で存分に力を発揮した充実感が言葉に表れていました。結果は再々逆転ならずとなりましたが、応援していたメンバーは「逆転トライをしたとき、あと10分耐えてほしいと思っていた。再逆転されたけれど、3点差なので、また逆転できると思っていた。（高尾樹門さん・I3・神埼中）」とチームの信頼の深さがわかる発言も聞かれました。

監督の枝吉巨樹先生は「今年のチームは成長の幅が大きく、こちらの期待通りに伸びてくれた。中には高校からラグビーを始めた者もいて、見えない努力も多かったと思う。最後の試合では、再々逆転のチャンスがあると信じて、緊張が切れないよう、諦めずに頑張ってくれと思っていたが…。もうひと工夫の準備が必要だった。」と総括されました。

北海道修学旅行（2年）

2年生は1月11日から14日までの3泊4日の日程で、札幌テイネスキー場でスキー研修を行いました。佐賀とは違う北海道の冬はいかがだったのでしょうか。スキーウェアを着れば寒さもへっちゃらでしたね。多くの生徒諸君がスキーを初めて習い、目覚ましく上達したのですが、中には口惜しくも「無理！」だったという人も。これには運動神経は関係ありません。その「無理！」だった人に、そのときの思いを尋ねました。「もう早く帰りたかった」、「立っているだけで落ちそうな山から滑らされて、オレンジの柵から落ちそうになって怖かった」、「頂上に上るときれいだけ怖かった」「エッジをうまくかけられたら止まれることはわかったのだけど…。谷底への恐怖と皆に取り残される寂しさ…、お気持ちお察しします。さて、上手くなった人に聞くと、「ハの字になるように膝を内側に入れて姿勢をよくすると上手くなった」、「止まり方がつかめたら上達した」、「曲がるときに重心移動するのがコツ」、「二の字でも滑れるようになった」などなど。



北海道は何が違いましたか？ 「雪がさらさらしていた」、「寒さの種類が違う」、「『いろはす』が佐賀のよりおいしかった」、「牛乳の濃さが違った」 ホテルの食事でおいしかったのは？ ロールパン、白みその味噌汁、チャーハン、白いご飯、やきそば が挙がりました。ほかにはアサヒビール園で食べたジンギスカンがおいしかったという生徒が多数いました。北海道ならではの食べものも満喫できましたね。

ICT建機施工体験実（建築科1年）



昨年12月14日（水）に熊本県にて建築科1年を対象にICT建機施工による体験実習が行われました。近年の建設現場では調査、設計、施工、検査等の工程において、ICTを使った高効率・高精度な施工が可能となり、経験年数を問わず、建設工事の生産性を向上させ、品質を確保することができるようになりました。生徒たちは実際に油圧ショベルに乗り、アームやブーム、バケットを専用のモニタを見ながら操作し、その最先端技術のひとつである運転制御システムを体験しました。

谷山三菜子さん ニュージーランドにラグビー留学



建築科2年の谷山三菜子さんは、昨年の夏7月16日から9月24日までの約2か月間、ニュージーランドのオークランド市マウントアルバートに短期留学しました。そのワクワクする留学生活について取材しました。

—どのような毎日を送っていましたか？

Mount Albert Grammar School という現地の学校に毎日通っていました。

Year9~Year13 まであるマンモス校ですごく大きな学校でした。ちょうど2学期が始まるころだったので教科選択から全部しました。また、その学校の部活動でラグビー部に入って週3回普通にみんなと練習をして試合にもでました。土日は休みだったので city に行って街を探検したり観光したり遊んだり、またラグビーのシーズン中で土曜日は毎週男子高校生の試合を見たりしていました。

—どのような人々の中で生活していましたか？

私はホームステイをしていました。5人家族ですごく大きな家でした。学校では留学生の日本人の子といたり、普通に現地の人と遊んだりしていました。とにかくみんなやさしかったです。

—どんなことが新鮮でしたか？

毎日新しいことばかりで新鮮でした。常に英語で話すことや文化も生活の仕方が違うことです。食事はいつもワンプレートだし、お風呂はガラス張りのシャワーですごくおどろきました。その中でも友達を1から作ることが大変だったけど、一緒に練習して仲良くなって、最後は楽しかった。

—ラグビーにはどんな成果がありましたか？

日本人とは違ってほんとに大きかったです。フィジカルでは到底勝てないし英語もはなせないのだからハードワークして、自分のしたいことを伝えたりサインプレーを覚えたりして試合に全部だせてもらったのはよかったと思います。タックルをでかい相手にも怖がらずに入ることができるようになりました。

—どんな課題が見つかりましたか？

1番強く思ったのは英語です。言っていることもわからず、言いたいことも言えなかったのがすごく悔しかったです。ラグビーではフィジカルです。とにかく強かったので低く早く動かないとやられてしまうなとおもいました。

—英語での生活はいかがでしたか？

ほんとに難しかったです。もう少し話せたら絶対もっと楽しかったらと思うました。でもここま

で英語だけの生活をしたことがなかったのが楽しいと思う部分もありました。最後の方には少

し聞き取れるようになっていろんな話ができのたのがうれしかったです。

—日本のほうがいいなと思うことはありましたか？

ご飯はやっぱり日本がいいなと思いました。また治安が日本ほどよくないと聞いて夜の外出ができなかったのもそういうところでも日本がいいなと思いました。

—嬉しかった出来事、楽しかった出来事を紹介してください。

友達ができたこと。試合に出られてシーズン最後の試合で準優勝できたこと。オークランド州の代表に選んでもらえたこと。City で遊んだこと。

—コロナの対応はどのようでしたか？

日本よりすごく緩かった。マスクもほとんどの人がしていなかったし先生も基本外していた。

—1番おいしかったものは何ですか？

ナチョスという食べ物。最初はお菓子かと思ったけどちゃんにご飯として食べていた。おいしかったです。

—物価は日本と比べていかがでしたか？

高かった。ペットボトルのジュースが日本円で300円ぐらいしました。

—日本に帰って頑張ろうと思ったことは？

英語と体作りです。

—今後の目標は何ですか？

12月17、18日にニュージーランドである World School Sevens にでるのでそこで優勝すること。また、いつかオリンピックにでたいです。



年末の大会 World School Sevens で谷山さんは日本代表チームのキャプテンを務めました。また、谷山さんのほかに3年生の片岡詩さん（情報システム科・木屋瀬中）も日本代表に選出されて出場しまし

た。本大会はニュージーランドの5チームを含むオーストラリア・オセアニア地域から23チームに日本を加え、計24チームで戦いが繰り広げられました。予選リーグを1敗で勝ち抜いた日本チームは、決勝トーナメントを勝ち進み、決勝でオーストラリアチームをくだし、見事優勝を飾りました。大会があったのはニュージーランドのオークランド。谷山さんが留学した街です。大会では「(留学時に)知り合った友達がたくさん観戦し、声をかけてくれたのが嬉しかった」と話してくれました。

女子高生と女性技術者との交流会

昨年12月22日、本校1年生と2年生の建築科女子を対象に、県内建設会社で働いている女性技術者及び佐賀県庁で働いている女性技術者との交流会が佐賀市内で行われました。交流会で生徒たちは実際に職場で働く女性技術者から、仕事の内容や建設業の魅力などの話を聞くことができました。またフリートークの時間、生徒たちはそれぞれ疑問に思っていることを質問し、今後の進路の参考になる貴重な時間を過ごしました。



表彰

M: 機械科 K: 機械システム科 E: 電気科 C: 電子科 I: 情報システム科 A: 建築科

- ◆ 2022 世界ジュニアテコンドー選手権大会
女子 -46kg級 第3位 岡本 留佳 (A2・城西中)
- ◆ 2022 セルビアオープン テコンドー選手権大会
女子 -46kg級 第1位 岡本 留佳
- ◆ 2022 ドラキュラオープン テコンドー選手権大会
女子 -46kg級 第1位 岡本 留佳
- ◆ 令和4年度 全九州高等学校選抜 バドミントン競技大会
男子学校対抗B 第3位
- ◆ 第15回 全日本ジュニアテコンドー選手権大会
男子 -68kg級 第2位 村井 竜磨 (E1・東与賀中)
- ◆ 第34回 佐賀県テコンドー選手権大会
一般男子 軽量級 第1位 納富 琥太郎 (A2・東与賀中)
一般男子 重量級 第1位 村井 竜磨
- ◆ 第41回 佐賀県選抜高校ソフトテニス インドア選手権大会
ペア 第3位 山田 枇知 (E2・城西中)
内田 拓真 (E2・城西中)

2 月 行 事 予 定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	水		15	水	学年末考査(1、2年)
2	木	スクールカウンセラー来校日 	16	木	
3	金	工業基礎学カテスト(2年) 	17	金	
4	土	ものづくり道場(ロボット)技能検定 電気機器組立(実技)	18	土	
5	日	建築大工技能士(学科)テクニカルイラストレーション(筆記)	19	日	
6	月		20	月	↓
7	火	進路体験発表 インターンシップ報告会 検査場準備	21	火	薬物乱用防止講話(1年)
8	水	特別選抜のため自宅学習	22	水	スクールカウンセラー来校日
9	木		23	木	天皇誕生日
10	金	3年生を送る会 3年生最終登校日	24	金	3年登校日
11	土	建国記念日	25	土	
12	日		26	日	
13	月		27	月	3年登校日 
14	火		28	火	3年登校日

佐賀県立佐賀工業高等学校

所在地 〒840-0841 佐賀市緑小路1-1

TEL 0952-24-4356

FAX 0952-25-7043

(ホームページ)

<https://www.education.saga.jp/hp/sagakougyoukoukou/>

編集後記 今年の抱負。若いころは、毎年考えていたような気がするのですが、近年はまったくありません。気づいたら新学期。気づいたら初授業。だからといって目標がないわけではなく、とりたてて新年である必要はないというか…。日々成し遂げるべきことを持ち、適宜軌道を確認していると、特に新年という節目は不要な、おそらくはそんな境地です。とか言って、抱負を練るなんてヒマがないくらい、年末年始は家の雑事に追われるのです。 K